

# 海外技術協力促進検討事業 農業農村復興等調査設計手法効率化検討調査

国名	ウガンダ共和国
発注者	農林水産省 農村振興局整備部
事業分野	農村開発
実施期間	2012年7月から約17ヶ月



©The World Factbook

## 事業の背景

地形や農業関係等のデータが未整備な場所では農業農村開発に必要な情報収集に多くの時間や労力を要します。アフガニスタンをはじめ、治安や道路インフラ整備の遅れ等がある国や地域では日本人専門家が現地で行う調査等の活動が制約されることも多くあります。このような場合に衛星データの活用や現地人材の協力により、必要な農業水利施設の整備・修復等の適地選定や計画立案・設計を可能とする手法を開発して、紛争や自然災害を受けた地域の効率的な復興支援に資することを目的として、この事業が農林水産省の補助を受けて始まりました。

## 事業の内容

この事業の調査は、ウガンダ共和国北部地域のため池整備地区(レイエダム)と大規模灌漑地区(ドホ)の2地区を実証調査地区として、次の2つの活動を通じて手法開発を行っています。

- (1) 高解像度の衛星データを入手し、地形図や土地利用図の作成とともに現地施設やその状況を写真やデータベース情報として整備し、計画作成に役立てることとします。
- (2) 従来の手法と両者を比較して手法の有効性を確認しつつ、衛星データによる対象地区の農地や施設状況の判読情報を把握した上で、現地人材による現場調査を実施して計画を作成する方法を検討しています。

事業は上記の活動を通じて、方法の実証を行って手法を活用するマニュアルを作成します。あわせて、現地政府職員やローカルコンサルタントに事業計画策定手法に関する研修やトレーニングを行っています。



GPS レシーバを利用した位置座標計測状況



事業計画作成手法の研修風景